



### 子どもの姿が出発点 ～「接続の質」を高める保幼小連携をめざして～

本市では、令和6年度から令和8年度までの3年間、上田小学校区（上田小学校・上田こども園・あゆみ保育園・へいわだい認定こども園）を架け橋プログラムのモデル校区とし、保幼小の架け橋期の教育の充実をめざしています。この通信では、モデル校区の取組を紹介していきます。



### 6月5日 公開授業前指導案検討会 ～よりよい授業を目指して～



指導案検討会の様子

公開授業に向けた指導案検討会では、講師の琉球大学教育学部准教授 塚原健太先生へ指導・助言を依頼し、当日の授業計画等について様々な視点から話し合いを行いました。講師の塚原先生が授業者の意図していることを丁寧に聞き取りながら話し合いが進められ、授業者以外の共同研究者や管理職等、様々な立場からもアイデアが出され、とても有意義な会を持つことができました。

6 本時の指導の工夫

- 導入では、常時活動を取り入れて、楽しく音楽活動に取り組めるようにする。
- リズム譜を活用し、視覚的に捉えやすくする。
- 話し合い活動では、これまでの経験や前置見をもとに、互いの考えを共有し、リズム譜に生かす。

7 指導上の留意

今年度のテーマ「自分の考えを持ち、思いあがる見聞の育み」に基づき、音楽科では教科の特性により活動前後におけるやりとりを通して、音楽活動による見方・考え方を働かせ、実践に活かす。

8 指導案 本時の指導 6 / 8 時

時	学習活動	指導上の留意点 (指導の手立て、児童の反応等)
10分	1 常時活動を行う。 ・発声練習 ・今月の歌「月桃」 かたつむり ・リズム打ち	・歌う姿勢、声の出し方の確認。 ・リズム譜の読み方を確認する。

コメントの追加 [健塚7]: 発声練習から入って子どもたちは意欲的に活動できているだろうか。なぜ発声練習が必要なのかを子どもたちは実感できているだろうか。

コメントの追加 [健塚9]: 特に低学年では、子どもたちがよりよく歌いたい！きれいに歌いたい！遠くの人にも届く声で歌いたい！かっこよく歌いたい！という思いや願いを基盤にしながら、姿勢や声の出し方の大切さに、子どもたちが実感をもって気付かせていきたい。

知識・技能は、何かをしたい！何かを実現したい！という思い・願いを実現するために必要になるものだ、という知識観に移行していきたい。

コメントの追加 [健塚8]: リズムうちは、視覚情報から入るのではなく、模倣(まねっこ)から入りたい、聴覚で捉えたものを、譜で表わすところなるんだっただよね、という流れで確認したい。

検討会后、塚原先生から丁寧なコメントをいただき、新たな気づきと深い学び、よりよい授業実践へつながるきっかけとなりました。

### 6月28日 上田小学校公開授業 ～講師からの指導・助言を授業に生かす～

#### ① 音楽科の授業の様子



8分音符(たた)にも挑戦

本時のめあては「かたつむりにのせてリズムをつくり、ともだちとつなげよう」でした。導入で「うたまねあそび」や「リズム遊び」「リズムまねっこあそび」等を楽しんだ後、子供たちは、4分音符(たん)と4分休符(ウン)を組合せてリズムを作ったり、作ったリズムを友達に紹介したりしていました。また、グループになって友達と協力しながら話し合い、8分音符(たた)に挑戦したり、互いのリズムをつなげたりする楽しさも感じているようでした。

## 生活科の授業



身近な野菜や花を用意する

これまでの振り返る

好きな方法で形に残せるよう、材料を準備する

面白いことに気づいたよ

4個に分かれた!

そしてここだけ薄い!

気づいたことを友達に話す

実際に色々な方法で試してみる

本時のめあては「いろいろな はなや やさいを いろや かたちで のこそう」でした。子供たちがこれまでのアサガオを使った遊びの経験を生かしながら色水の出し方を工夫したり、残す方法を考えたりできるよう様々な材料や用具を準備する等、環境づくりの工夫が見られました。また、自分なりに気づいたことや感じたことを友達に話す姿も見られました。

## 6月28日 公開授業後の合同研修会 ～保幼小でアイディアを出し合う～

職員が話し合える場を整えることで、保幼小の職員間のつながりが深まっているように感じました。連携・接続の取組では、小学校・就学前施設どちらか一方に合わせるのではなく、それぞれが立場や学校種を超えて、互いの考え方等を尊重し理解し合いながら進めていくことが大切ではないかと思いました。



園での経験をもとに...

保幼小それぞれで工夫できることを考える

ワークショップの様子

★就学前施設 ◎小学校

★サークルタイムや子ども会議で自分の考えを伝える経験が必要だね!

★リズム遊びや楽器、わらべ歌に親しめる経験が大切だね!

◎45分の授業の中でできなかった「子供のやりたい」をワークスペースに出せるといいな!



スタカリ実践報告

スタカリの実践を振り返り、次年度につなげる



生活科では、子どもたちの興味がどこに向かうのか、どのような気付きや、思いや意図を持つのかによって、指導計画を調整する余地はあっていいのかなと思います。したがって、学級によって展開の仕方や焦点のあてどころは異なってもいいと思います。それができるのが、幼小接続や子どもたちを真ん中においたカリキュラム開発（カリキュラム実践）の本質ではないでしょうか。

一方、そのように子どもの姿に寄り添って授業を展開するためには、教師が特定の学習活動や教材を通して、何をできるようにしたり、経験したりしてほしいのか、というねらい（目標）が意識されている必要があります。子どもたちは意識しているかは別として、前に経験したこと、やったことがあることとの連続で次の学習活動を捉えると思います。だからこそ、生活科の学びとして「気付きの質の高まり」を実現するためには、教師の意図的な声かけ、環境づくり、きっかけづくりが肝要になってきます。（一部改変）



豊見城市幼児教育センター

